

水と私たち

墨田区立文花中学校

二年二組

くめ
久米 莉乃

「ガンガンガン、ゴォー」

夏休み中のんびり寝ていた私は耳が壊れそ
うな程の物凄い音で飛び起きました。一体何
事かとりびンゲから窓の外を見てみると、大
きな工事車両のような車が何台も家の前の道
を塞いで止まっていた。父も窓の外を見
て、駐車場から車出せるかなと母に聞いて
いました。母は、今日から数日は家の周りで
水道管の工事があるから、車は出せるけど通
行止めしてる道があるみたいだよと話してい

ました。夏休みの宿題でもやろうかなと思
机に向かいました。窓を閉め切っていて
物凄い音で集中できません。少しイライラし
て、この工事いつ終わるの？と母に聞くと、
みんなのために工事してくれてるんだからそ
んな言い方しないの！と怒られてしまいまし
た。ふと、すっかり忘れていた宿題の作文を
思い出しました。水道について作文を書くん
だった。水道のことについて何か考えたこと
もなかった。私は色々調べてみることにしまし

た。

まず驚いたのは一人が一日の生活で使う水の量です。なんと平均二百十二リットル。これはニリットルペットボトル約百六本分に相当します。真先に、私そんなに水を使った記憶がないんだけど？と思いました。一度改めて朝起きてからの自宅での自分の行動を考えてみました。顔を洗って歯を磨いてトイレに行つて朝ご飯を食べて、あれ？私ずつと水道を使っている。学校から帰宅して手を洗つ

つうがいをして、宿題をしてご飯を食べてお風呂に入る。生活イコール水とほぼ直結しているかのように感じました。人が生活しているために水は必要不可欠のものだとこの時初めて気がつきました。東京都は国の定める水質基準を大きく上回る三百一項目の検査、基準を守る対応をしているそうです。私たちがいうでも安心して安全な水を飲めるよう、水源から蛇口まで様々なポイントで徹底的に水質検査をしてくれています。蛇口をひねれば

当たり前に出てくる水道水はたくさんの方の手によって作り上げられています。私の家の前の工事もそうです。古くあった水道管を使い続けるのと水質の悪化はもろんです。水漏れや断水、地震や災害時の被害が拡大する恐れまであります。工事は連日の猛暑日も朝からずっと作業をしており、少し離れた場所では夜もとても大音量のライトのようものを付けて作業していました。数日間、朝も夜も工事の音が聞こえていました。少しでもう

るさいなと感じてしまっていた自分が恥ずかしくなりました。でも工事をしてくれることによって水が使えるというのを今回気づけたし、母の言っていた意味もよく分かりました。色々調べたので今では家族の中で誰よりも水道に詳しい自信があります。以前家族旅行で行ったダムも、今ならまた違った見方ができたなと思いました。当時は大きいな、とか深くて怖いな、くらいしか思いませんでした。でもあのダムは雨の多い時期に水を貯め、

少ない時期に放流し調節するということ大事な役割を果たしていました。水も限りある資源だということも分かりました。母によく水の出しっぱなしを注意されますが節約のためだけではなく、自分のため、地球のためにも水は大切に使うていかなければなりません。一人一人が意識して少しずつでも取り組むことがこの先十年後、百年後に影響してくるのだと思います。

今まで何も考えず使っていた水だけれど、

限りある資源だということ、そしてたくさんの方の手によって維持されていることに感謝しないといけないと思いました。当たり前を当たり前と思わず、生活と切り離せない水道を大切に使うていこうと思います。